

僕の名前は○○
○○○○学園に
通っている学園生

この坊主の奴が
僕の友達
根鳥ダイキ

隣にるのが
谷風アオコ

少し抜けている
ところがあるけど
優しい子

僕の初めての
彼女だから
とても大切にしたい
と思っている

あけすけで
エロいことが
大好きな奴で

相手に気を
使わせないから
誰とでも
友達になれる

毎日三人で
仲良く過ごしていた…
そう…あの日までは…

根鳥くん突然
お邪魔してごめんね

〇〇君って
どんな子が
好きなのかな？

ちよつと最近距離が
あるように感じて…

そういえばあいつ
エロい女が
好きだって
言ってたっけなw

しょうがねえなw
俺が教えてやるよ

〇〇には内緒な？
サプライズのほうが
あいつも喜ぶじゃん？

エ、エロい女!?
どうしよう私
なんにも知らない…

そうだねさっすが
〇〇君の親友!!
私も不慣れだけど
頑張るね!!

男の人のって
こんなに
大きいんだあ

エロい女は
チ○ポってちゃんと
言わないとだめだぞ？

そうなんだ
チ○ポ…ちよつと
恥ずかしいかも？…

じゃあまずこれを
アイスを食べみたいに…

ふお
ふおう？

おおっそうそう
こっから見える
谷間も最高♥

しっかり音立てて
下品に舐めると
もったいいぞ

ふあいつ

じゃぽっ

じゃる

まじでうまいっ
我慢できねえ♥
でるっ

しっかり口で
受け止めるよっ



最後までしっかり
吸い取って

ぐわー

綺麗に
舐めとれたら
全部飲むんだぞ

ん?!
ふおれを!?

ぐわー

エロい女に
なるんだろ

ゴブゴブ

おい
おほー

うおw
ほんとに全部
飲みやがった

今思えば…

二人とも
遅れてごめん！

思ったより
早かったな！

ふお
ふお
うだね

アオコちゃん
なんか食べてるの？

サプライズだから
誤魔化さないって

お、お菓子
食べてたの

この時から
違和感があった





レッスン3

チ○ポに
口で装着して

ふおう?♡

ぬいっ~

セックス…
本番いくぞ

ちょっと
ドキドキする…

エロい女は
気持ち良かったら
隠さず口に出すからな

うん
やってみる

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

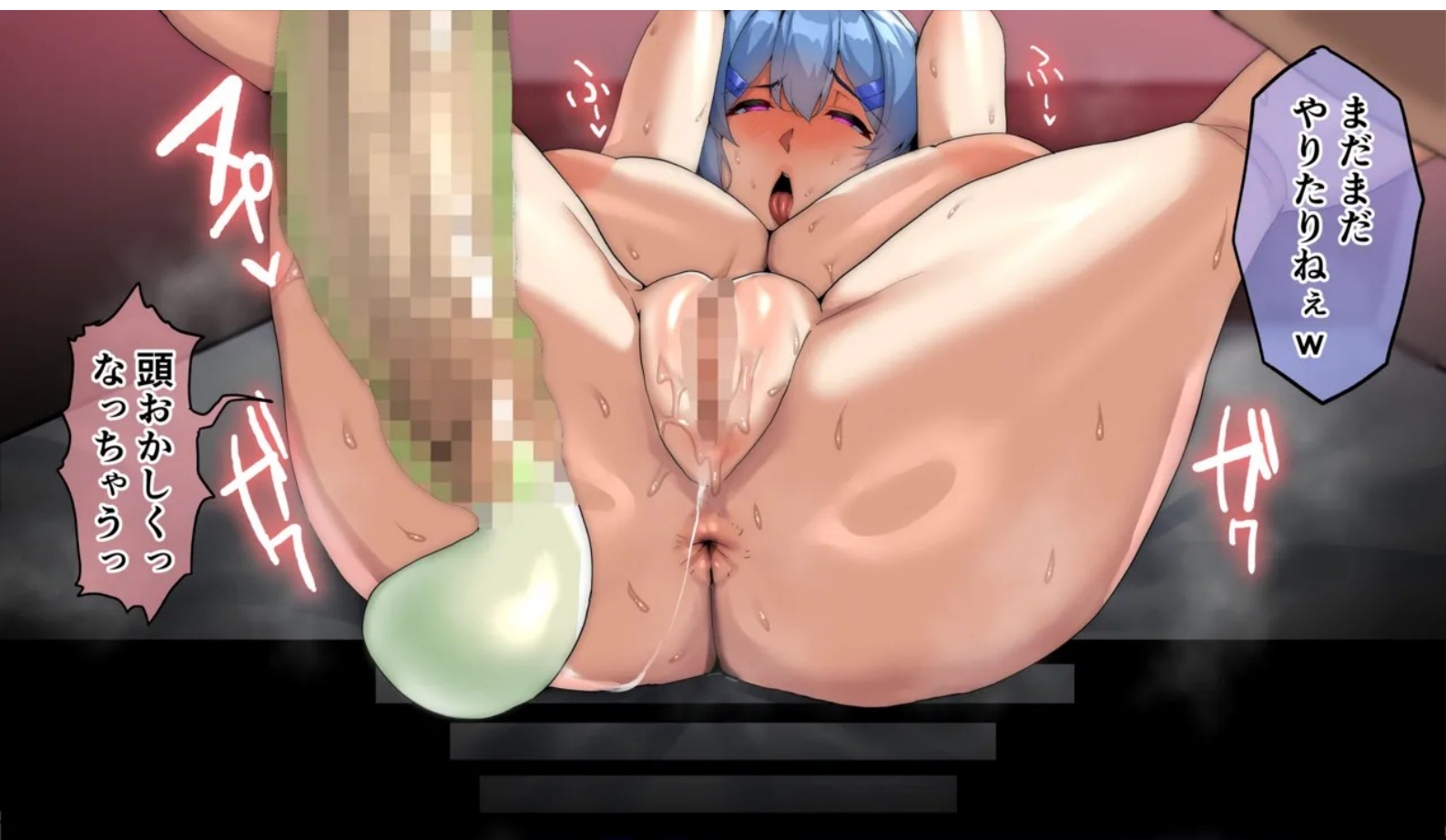
やっべっw
興奮しすぎて

一気に奥まで
いれちゃったw

気持ち良すぎて
言葉にもなっ
てないじゃんw

もう立派な
エロ女だな





まだまだ
やりたりねえw

頭おかしくっ
なっちゃうつ



もう何発出したか
覚えてないわw

これで〇〇君に
喜んでもらえるっ

くくっ
よかったなw

使用済み
コンドーム
数えたらわかるか

ついに
アオコちゃんとの
男女の行為…



チ○ポ先に
抜いちゃうね♡

チ○ポ!!
そんなこと
いう子じゃ…

いじわる
いじわる

いじわる

うっ
耐えられないっ

私のおマ○コも
触って

う、うん

なんか凄い
手慣れてる…



うっもう
出るっ

ひゅる、
ひゅる、
ひゅる

ひゅる、
ひゅる、
ひゅる

ずっと
リードされ

明らかに
初めてじゃない
ことがわかった



アオコちゃん
なんかすごい
慣れてるね

気持ちよかった？

良かったけど…

根鳥君に聞いて
色々教えて
もらったの

ほんと?!
実は○○君が
エロい女が好きって

エロい女が好き…?
教えてもらったって
どうやって…

えっと…
フェラとかセックスを
実際に根鳥くんと…

破裂しそうな
ほどの怒りで
頭が沸騰し

彼女の言葉が
それ以上
入ってこなかった

えん??



彼女の
抜けている所に

付け入った
あいつへの怒りが
収まらない僕は

後日家の前に
来ていた

一人暮らしで
鍵をかけて
いないので

怒りに任せて
扉を開ける

もう僕は
何をしても
止まらない

それくらいの
怒り、苦しさの
はずだった

目の前に
現れたのは

ダイキとの
獣みたいな
交尾で

僕が
見たこと
ない程イく

アオコちゃんの
姿だった



おっ
○○じゃん

動揺で
声がでない

○○君との時
イけなかったから

まだ練習
足りないと思
って

根鳥君に
教えて
もらってたの♡

悪気がない
彼女の言葉

男としての
圧倒的な敗北感

苦しいはずなのに
反応してしまう
情けない自分



僕はその場から
逃げ出した

彼女からの
メッセージも
みることができない

僕の脳裏には
アオコちゃんの
淫らな姿が
こびりつき離れない

相手が僕だったら
どんなに
幸せだったか…

楽しかった
日常はもう
戻ってこない…

